

重点2 がん対策

◇目指す姿

・早期発見のためのがん検診の受診率を増やし、壮年期におけるがん死亡率を減らします。

◇指標の達成状況

★評価：ほぼ達成(◎) 改善傾向(O) 横ばい(→) 悪化傾向(△) 評価なし(-)

【保健医療の水準】

No.	指標	策定時の値	直近値	目標値	評価
		＜壮年期全体＞			
1		男性 164.4	94.0		◎
2		女性 129.6	92.3		◎
		＜部位別＞			
3		胃 男性 29.0	9.6		◎
4	壮年期(40歳～64歳) のがん死亡率 (人口10万対)	女性 12.6	12.5	1割以上の 減少	O
5		肺 男性 21.0	23.9		△
6		女性 17.4	11.0		◎
7		大腸 男性 32.2	11.1		◎
8		女性 19.0	9.4		◎
9		乳房 女性 31.6	17.2		◎
10		子宮 女性 9.5	11.0		△

(死亡実数が9人以下のものもあり、数人の増減で統計処理後の変動幅は大きくなる)

H20・H26 厚生労働省人口動態調査票情報利用

【市民自らの行動指標】

No.	指標	策定時の値	直近値	目標値	評価
11	がん検診を受診している者の割合 (長野市実施のがん検診及び職場検診、人間ドック等含む)	胃がん 40.7%	43.6%	50%	O
12		肺がん 35.8%	50.3%		◎
13		大腸がん 38.2%	50.7%		◎
14		乳がん 33.2%	32.2%		△
15		子宮頸がん 32.2%	32.0%		△

H21・H27 健康づくりに関するアンケート

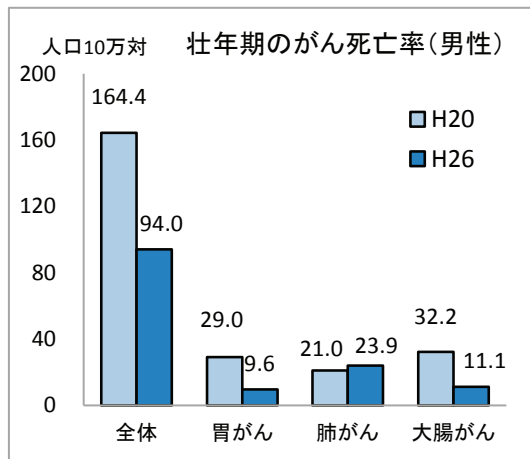
【行政・関係団体等の取組指標】

No.	指標	策定時の値	直近値	目標値	評価
16	がん精密検査受診率 (長野市実施)	胃がん 88.1%	93.4%	100%	O
17		肺がん 93.3%	93.6%		O
18		大腸がん 75.4%	70.0%		△
19		乳がん 76.0%	89.3%		O
20		子宮頸がん 66.7%	74.2%		O

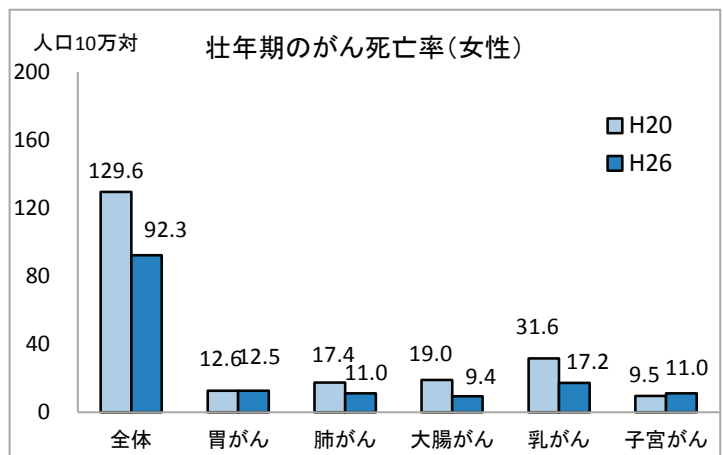
H21・H26 健康課とりまとめ

○ 壮年期（40～64歳）のがん死亡率

(図 1)



(図 2)

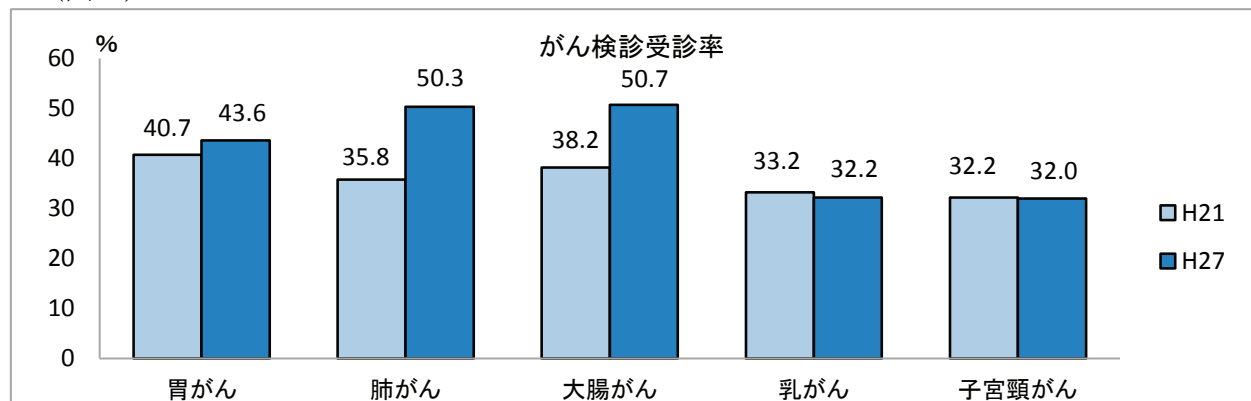


H20・H26 人口動態統計

- ・ 壮年期（40～64歳）のがん全体の死亡率は、男女ともに減少し、目標値を上回りました。
- ・ 部位別の死亡率の比較では、肺がん（男性）、子宮がんは増加しましたが、胃がん（男性）、大腸がん（男女）、乳がんは減少しました。

○ 市民のがん検診受診率

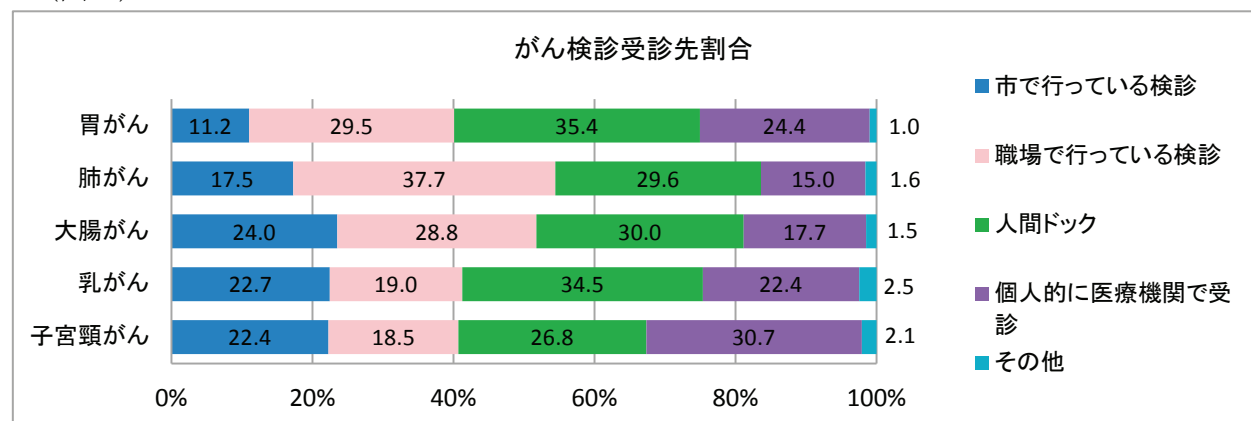
(図 3)



H21・H27 健康づくりに関するアンケート

- ・ 肺・大腸がん検診の受診率は、増加し、目標値である50%を達成しました。
- ・ 乳・子宮頸がん検診は、受診率が30%台と低い状況です。

(図 4)

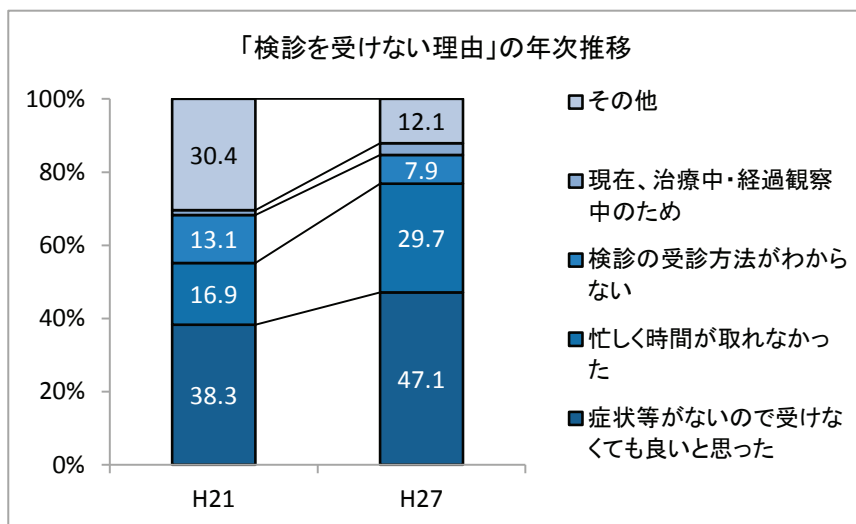


H27 健康づくりに関するアンケート

- ・ 大腸・乳・子宮頸がん検診は、他のがん検診に比べ、「市で行っている検診」を受けている人の割合が高く、無料クーポン券の配布が要因と考えられます。

○ がん検診を受けない理由

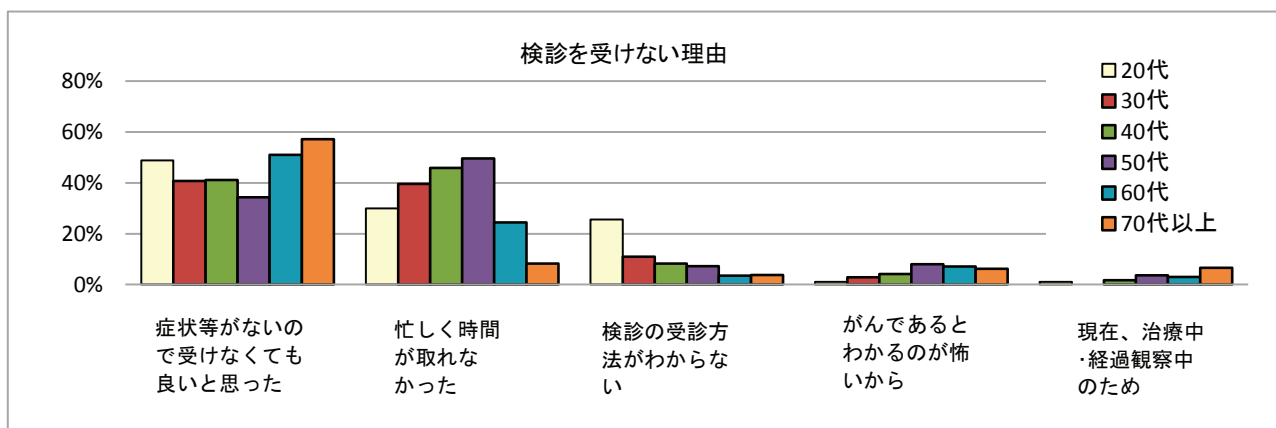
(図5)



- 平成27年は、「症状等がないので受けなくても良いと思った」「忙しく時間が取れなかった」と回答した人を合わせると約8割を占めており、策定時以降、増加しています。

H21・H27 健康づくりに関するアンケート

(図6)

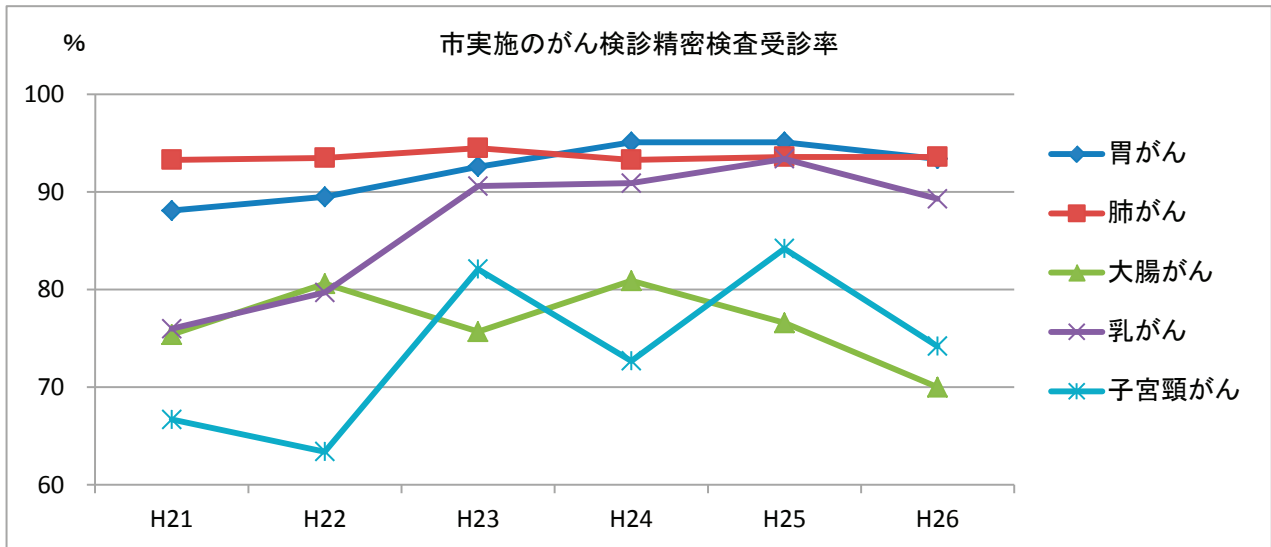


H27 健康づくりに関するアンケート

- 20代、60代、70代以上は、「症状がないので受けなくても良いと思った」と回答した割合が高い状況でした。
- 40、50代では、「忙しくて時間が取れなかった」と回答した割合が高い状況でした。
- 「検診の受診方法が分からない」と答えた人が約1割いました。特に20代では2割を超えています。

○ がん精密検査受診率

(図 7)



健康課とりまとめ

- ・ 胃・肺がん検診の精密検査受診率は、9割前後で推移しており、目標である100%に近づいています。乳がん検診についても、平成23年度から高い水準で推移しています。
- ・ 大腸がん検診の精密検査受診率は、他のがん検診と比較すると低い状況となっています。
- ・ 子宮頸がん検診の精密検査受診率は、低い状況ではあるものの、策定時と比べて高くなりました。

◇ 指標に関連した主な施策（事業）

- 健康情報等の発信
- 女性特有のがん検診推進事業
- がん検診
- がん検診のあり方の検討
- がん検診のフォローアップ（精密検査受診勧奨）

◇ 今後の課題

- ・ 女性特有のがん検診については、他のがん検診の受診率より低く、改善傾向が見られないため、受診率向上に向けての更なる工夫が必要です。
- ・ がん検診の未受診理由で、「忙しく時間が取れなかった」と回答した割合が働き盛り世代を中心に多いことから、職場との連携を強化し、受診の重要性について知識の普及啓発に努める必要があります。